

# 精神科診療所の歴史と現状の研究

——現代社会のメンタルヘルスをめぐる動向の一側面として——

滋賀県立大学 中村好孝

## 1 目的

現代社会のメンタルヘルスについて考察するには、精神科診療所（メンタルクリニック）に注目する必要がある。従来、精神医療施設として社会的な議論の対象によくなってきたのは、（入院設備のある）精神科病院であった。精神科病院は一般病院とは異なり患者を収容する施設としての側面をもつこと、平均入院日数が長いこと、日本の病床にしめる精神科の病床の割合は他国と比べて異常に高いことなどはよく知られており、しばしば批判的な議論の対象になってきた。しかし今日、精神科の医療施設として急増しているのは（入院設備がないか少ない）診療所である。本報告は、日本社会のメンタルヘルスの変容と現状の一側面を明らかにすることを目的として、精神科診療所の歴史と現状について整理する。

## 2 方法

例外的なものはあるようだが、日本社会に精神科の診療所が登場したのは、戦後になってからと言ってよい。歴史については、精神科診療所の関係者による著書、日本精神神経科診療所協会（最大の精神科診療所団体、1974年結成）のジャーナルのバックナンバーなどを主要な一次データとして用いる。

現状については、ある精神科診療所（1990年開業、入院設備なし）の参与観察および、スタッフへの聞き取り調査も利用する。

## 3 結果

戦後の日本の精神科診療所の歴史については、仮説的に、3つの時期に分けることができそうである。第1に、先駆的な実践者たちが開業していった時期。精神科病院のサテライトとして、あるいは地域で治療活動を行なうために、開業をする診療所が現われた。第2に、診療報酬の変化などで、黒字で経営していける目途がつき、開業が増えていった時期。診療所の役割をめぐって、いくつかの争点が浮かび、一部の診療所は「重装備型」となった。第3に、精神科診療所の開業ブームが言われるようになった時期。対象が多様化したことも指摘されている。

今日は第3の時期であり、産業メンタルヘルスやスクールメンタルヘルスなど、今日的なメンタルヘルスの多様な分野での活動に積極的に関与している。メンタルヘルスの実践を多くの領域へと浸透させるアクターの一つとしても重要な位置にある。

また、数の増加とともに、標榜科の傾向も変化しており（神経科→精神科→心療内科）、これは社会の受容や精神疾患観などの変化と関係しているのではないかと考えられる。

## 4 結論

薬物療法の進歩が、入院設備をもたない診療所での治療を成立させている。先駆的な診療所の開業医たちは、精神科病院に反発して診療所を志したという主旨の発言をしばしば行っているが、精神科診療所は「反精神病院」ではあっても「反精神医学」ではない。増えている精神科診療所は、今日、メンタルヘルスの知や実践が社会に普及している原因でもあり結果でもある。